

# 神中しーぶん

平成27年  
3月9日

神原中  
不定期54号

## 36年前の忘れ物!!

～卒業式へ向けての校長講話より～

平成二十七年の正月が明け、三月が来ました。一月は「行く」、二月は「逃げる」とはよくいったものです。三月は「去る」と言います。四月が矢のごとくやってきて、三年生は高校生に、二年生は二年生、一年生は二年生に進級します。しかし、三年生のみならず、来週の火曜日、水曜日にある高校入試を突破しなければなりません。最後の追い込みの勉強はどうですか。寸暇(時間)を惜しんで勉強する時期です。

今、日本全国の中学生が高校入試に向けて一生懸命頑張っているのです。頑張りなさい、Aさん。私が出会ったときは、中学生のとき、お父さんの仕事の関係で、韓国から沖繩に転校してきました。

係で、韓国から沖繩に転校してきませんでした。同級生の中にとけ込みきれず次第に学校へ行かなくなり、そのまま非行に走りまわりました。言葉の通じないものでかきさや友達のできない不満から、身の回りにあるものを壊し、側にいる人をみんな傷つけて荒れた中学生生活を過ごしました。外車を乗り回して学校に来たこともあったそうです。飲酒、喫煙は当たり前。暴力をふるったこともありました。

学校へ行かなくなったので当然卒業証書ももらえませんでした。そして、彼は施設に入ったり出たりしました。十九歳で施設から戻ってきたとき、彼は考えました。俺はこのまま悪の道を突き進むこともできる。しかし、生き方を変えてやりなおすこともできる。どうしようか。彼はどちらを選んだと思いますか。

(この続きは裏面へ)

## 年間多読賞!!

三年生の部

去る3月3日(火)の全体朝会にて、三年生の年間多読賞の表彰が行われました。本年度の年間読書冊数は、目標を大幅に上すことができました。校長先生も高めに目標を定めていました。基礎学力の向上に大きく関わりのある事です。

一位…536冊	中島	三結(3-3)
二位…504冊	新里	潤一(3-4)
三位…502冊	宮城	未来(3-2)
四位…498冊	喜納	勝海(3-4)
五位…497冊	比嘉	寿来(3-2)
六位…494冊	長堂	嘉輝(3-4)
七位…488冊	高嶺	玲奈(3-1)
八位…457冊	長谷川	智也(3-2)
九位…443冊	大林	百合香(3-4)
十位…420冊	赤嶺	優香(3-3)

## 学校保健委員会!!

去る3月5日(木)13:45~14:50の間、第二回学校保健委員会を開催しました。先史と浩貴先生、吉田洋代表先生、清順先生、保護者代表PTA副会長、省吾先生、保健室の利用状況や災害発生時の対応、体力テストの結果、避難訓練の状況、避難訓練の報告、騒音測定結果の報告など、その中で、気分不良で保健室へ来る生徒が昨年度よりも減少していること。インフルエンザの発生が1・2月の集中でも、特に持久力や走る力が全国どこの平均より大きいことが、沖繩県の実績が効果的だということもありました。

## 平田先生講話!

皆さんのきちんと聞いてる姿を見て安心しています。来週の金曜日には卒業式が行われます。三年生が主役の卒業式です。まずは三年生が気持ちをしっかり持って望んで欲しいと思います。

一年生が入学したときに、二・三年生が祝ってくれたことに対して、お返しする番になります。色々な場面面で三年生にお世話になったと思います。それに対する感謝の気持ちを表す場にして欲しいと思います。歌うときは歌う。聞くときは静かに聞く。メリハリのある行動を心がける事です。

二年生は、先輩への感謝の気持ちを表すとともに、式に臨む態度等、先輩として一年生の後輩に対してお手本になつて欲しいと思います。そして自分たちの卒業式へとつなげることが大切です。神原中学校の卒業式は、ここ数年何事もなく落ち着いた中にも厳粛に行われています。校外での問題等に引き込まれないように、卒業式の日には各家庭において、静かに祝ってください。





## 卒業式に向けての校長講話「36年前の忘れ物」

H27. 3. 3 全校朝会にて

このまま沖縄にいたら悪の道から離れられないと考えた彼は、ガールフレンドと東京に出ます。そして、誰も知っている人のいない東京で、妻と二人の生活が始まりました。最初は仕事もなかなか見つからず、一匹のサンマを3日分に分けて二人で食べる日々でした。どん底の生活を味わいながらも、家族を養うために一生懸命働いてアルバイトを一つ増やし二つ増やし、今月は3万円もらったら、来月は5万円もらえるようにしよう、次の月は10万円もらえるようにしようと一生懸命働き、そしてAさんはついに建設会社の社長になります。

中学校をまともに卒業できなかった彼が高校卒や大学卒の社員を部下に持って自家用ヘリコプターや外車を何台も持つほど成功しました。

しかし、どんなに一生懸命働いても、どんなに真面目に生きていこうとしても、どんなに成功しても、彼の心にいつも引っかかっていることがありました。それは中学校を卒業していないこと。中学校の卒業証書をもっていないこと。それが心につかえ、その心の仕えが取れることはありませんでした。Aさんは、中学卒業と履歴書に書くとき、いつも自分がうそを書いているような気がして書いては消し、消しては書いてということを続けていました。そして、高校卒、大学卒の部下たちを見るたびに、中学を卒業しなかった自分を後悔します。Aさんは次第にいつか中学の卒業証書をもraitたいと熱望するようになりました。

卒業証書がほしい。卒業証書がほしい。いつか卒業証書がもらいたい・・・

Aさんにとって卒業証書の重みは、海よりも深いものでした。Aさんはその思いを36年間も持ち続けていたのです。

私がAさんにあったのは、学校の創立60周年記念のチャリティーゴルフコンペのときでした。たまたま沖縄に戻っていた彼は、自分の長年の思いを友人に打ち明け、卒業証書をもらうにはどうしたらよいかと尋ねました。そしてその友人が校長である私に、彼が卒業証書をもらえるように嘆願してきたのです。私は彼のために卒業証書を作成し、校長室で彼のための卒業式を執り行いました。その日、彼のために中学時代の友人達が10人ほど花束を持って駆けつけてくれました。卒業証書を受け取ったときAさんは、長い年月の心のかえと中学時代の思い出がよみがえって、涙が止まりませんでした。36年前においてきた忘れ物をついにもらうことができたのです。

どんなに成功しても金持ちになっても中学校を卒業したという証明をもらえなかったという心の空白を、36年の時を越えて埋めることができたその後のAさんの笑顔はそれまでと全く違うものになりました。この卒業証書は今、Aさんの会社の社長室におかれているそうです。

みなさんは、このお話を聞いてどう感じますか。

私はこのAさんとの出会いから、卒業式や卒業証書が私たちの人生に及ぼす影響というものについて深く考えさせられました。Aさんの友人の中には卒業式に出られなかった人が数名いました。その人たちがAさんの卒業式に参加し、本当にうらやましそうでした。

卒業式は、私たちだけのものではなく私たちが支えてくれた人たちのためにもあるものです。だから、絶対に厳かでみんなの心に残るものでなければなりません。

3年生のみなさん、3カ年間頑張った自分や友人のために、支えてくれた家族に感謝を伝えるために厳粛で思い出に残る卒業式にして有終の美を飾りましょう。

2年生、1年生のみなさん、3年生の中学校での卒業式は一生に一度のものです。一生忘れられない感動ある卒業式を作り上げ、先輩方の晴れの日を祝いましょう。

卒業証書の重み、卒業式の重みを今日全校生徒が感じて、今度の卒業式が厳かで感動ある素晴らしい式になることを心から願い今日のお話を終わります。